

令和5(2023)年7月26日

報道関係者
地域広報関係者 各位

国際日本文化研究センター

「第7回 日文研－京都アカデミックブリッジ」開催のお知らせ

国際日本文化研究センター(日文研)は、京都新聞社と連携し、これまでの研究や最新成果を市民の皆さまに発信することを目的として、京都市中心部の会場で継続的に「日文研－京都アカデミックブリッジ」を開催しています。

第7回目は、京都新聞文化ホール(京都新聞ビル7階)を会場として、下記のとおり開催しますので、周知へのご協力をよろしくお願いいたします。取材を希望されるメディアの皆様は、下記事務局の京都新聞COM事業推進局開発推進部に、事前にご連絡ください。

記

- タイトル: 第7回 日文研－京都アカデミックブリッジ
- テーマ: 「アジアと上方～美術がつなぐ近代～」
- 日時: 2023年8月29日(火) 18:30-20:30(開場18:00)
- 会場: 京都新聞文化ホール
(京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都新聞ビル7階)
- 参加料: 無料、要申込(定員150名、応募多数の場合は抽選)
- 内容: 長崎を窓口として中国・アジアと交流し、芸術を介した多様なネットワークを生み出したのが京、大坂を中心とした上方の画壇です。江戸時代から戦後にかけて芸術面での受容と変容を繰り返し、作品が洗練され、新しい表現や文化が生まれた背景には多くの人々のつながりがありました。新時代と共に歩んだ上方文化とアジアとの交流について、様々な立場からディスカッションします。

【1】パネルディスカッション

【パネリスト】

浅野 均(あさの・ひとし) 日本画家、京都市立芸術大学 名誉教授
菅谷 富夫(すがや・とみお) 大阪中之島美術館 館長
菅原 真弓(すがわら・まゆみ) 大阪公立大学 教授
戦 暁梅(せん・ぎょうばい) 国際日本文化研究センター 教授

【進行】

劉 建輝(りゅう・けんき) 国際日本文化研究センター 教授

【2】質疑応答

※日本語で行います。詳細については、以下のURLをご参照ください。

https://www.nichibun.ac.jp/ja/events/academic_bridge/2023/08/29/

本件お問い合わせ先:

事務局 京都新聞COM事業推進局開発推進部

TEL: 075-255-9757 (平日10:00-17:00) E-mail: keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

○申し込み方法:参加をご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望人数(複数名参加希望の場合は全員の必要事項)を明記のうえ、はがき、Eメールまたは応募フォームからお申し込みください。
応募多数の場合は、抽選を行います。参加者にはがき(聴講券)を発送しますので、当日持参してください。

応募締め切り:2023年8月16日(水)必着

○申 込 先:【は が き】〒604-8567 京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都新聞COM事業推進局内
「日文研-京都アカデミックブリッジ」係
【E - m a i l】 keikaku@mb.kyoto-np.co.jp
【応募フォーム】 https://kyoto-np.jp/_kIUJCIA

○主 催:国際日本文化研究センター、京都新聞
○後 援:京都府
○別 添 資 料:第7回 日文研-京都アカデミック ブリッジ広報チラシ

本件お問い合わせ先:

事務局 京都新聞COM事業推進局開発推進部

TEL: 075-255-9757 (平日10:00-17:00) E-mail: keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

NICHIBUNKEN KYOTO ACADEMIC BRIDGE

第 7 回

日文研 京都

アカデミック
ブリッジ



アジアと上方
～美術がつなぐ近代～

パネリスト：浅野 均（日本画家、京都市立芸術大学 名誉教授）
パネリスト：菅谷 富夫（大阪中之島美術館 館長）
パネリスト：菅原 真弓（大阪公立大学 教授）
パネリスト：戦 暁梅（国際日本文化研究センター 教授）

進行：劉 建輝（国際日本文化研究センター 教授）

2023.8.29（火） 18:30～20:30（開場18:00） 京都新聞文化ホール

（京都市中京区烏丸通夷川上ル京都新聞ビル7階）

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター、京都新聞
後援：京都府

要申込

入場無料

定員150名

（抽選による）



THEME

アジアと上方 ~美術がつなぐ近代~

長崎を窓口として中国・アジアと交流し、芸術を介した多様なネットワークを生み出したのが京、大阪を中心とした上方の画壇です。江戸時代から戦後にかけて芸術面での受容と変容を繰り返し、作品が洗練され、新しい表現や文化が生まれた背景には多くの人々のつながりがありました。新時代と共に歩んだ上方文化とアジアとの交流について、様々な立場からディスカッションします。



パネリスト 浅野 均 (あさの・ひとし)

日本画家、京都市立芸術大学 名誉教授

京都市立芸術大学美術専攻科(現 大学院)日本画専攻修了。1982年に第9回創画展にて創画会賞を受賞し(83/86年にも同賞を受賞)、87年に会員に推挙。1994年、文化庁在外研修特別派遣(中国)。2015年、京都府文化賞功労賞受賞。2020年、京都市文化功労者表彰。作風は柔軟な筆致と褐色系の色彩を基調とした日本の田園・田舎風景をモチーフに情緒、風土と共に日本人の心を表現し和みの世界を展開する。主な作品に『雲湧深处』2003年、『春望』1991年(京都国立近代美術館蔵)など。



パネリスト 菅谷 富夫 (すがや・とみお)

大阪中之島美術館 館長

財団法人滋賀県陶芸の森学芸員、大阪市立近代美術館建設準備室学芸員を経て2017年より大阪中之島美術館準備室長。2019年より現職。近代デザイン、写真、現代美術の分野を担当する一方、新しい美術館整備を統括する。館外においても上記分野の批評・評論活動を多数行う。担当した主な展覧会は『美術都市・大阪の発見』展(1997年)、『早川良雄の時代』展(2002年)など。共著に『都市デザインの手法』(1998年)、『デザイン史を学ぶクリティカルワークス』(2006年)など。



パネリスト 菅原 真弓 (すがわら・まゆみ)

大阪公立大学 教授

学習院大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士後期課程単位修得退学。博士(哲学・学習院大学)。京都造形芸術大学准教授、和歌山大学准教授を経て2017年より現職(2022年4月、大学統合により「大阪公立大学」に改称)。専門分野は日本美術史(日本近世近代絵画史、版画史)。特に江戸時代の終わりから明治期における媒体(主に版画、浮世絵版画など)について研究中。主要著書に『月岡芳年伝 幕末明治のはざまに』(中央公論美術出版、2018年)、『明治浮世絵師伝』(中央公論美術出版、2023年)などがある。



パネリスト 戦 暁梅 (せん・ぎょうばい)

国際日本文化研究センター 教授

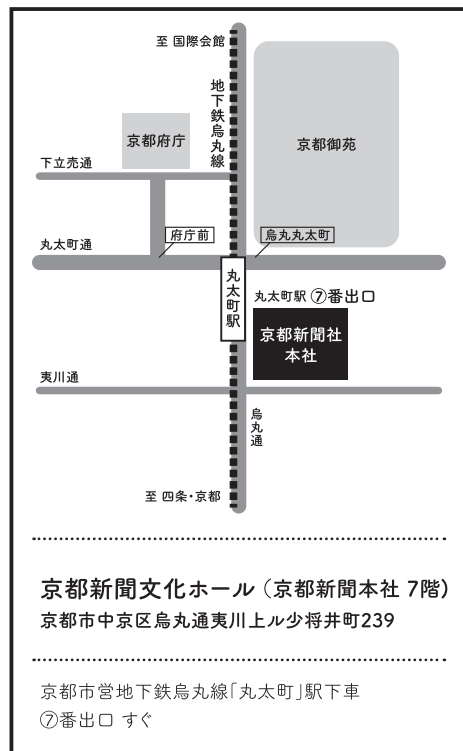
2001年総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程修了、学術博士。国際日本文化研究センター講師、日本学術振興会外国人特別研究員、東京工業大学准教授を経て2022年10月より現職。専門は近代日中美術交渉史。著書に『鉄斎の陽明学』(2004年)、共編著に『近代中国美術の胎動』(瀧本弘之との共編、2013年)、『近代中国美術の境界——越境する作品、交錯する藝術家』(瀧本弘之との共編、2022年)などがある。



進行 劉 建輝 (りゅう・けんき)

国際日本文化研究センター 教授

1990年神戸大学大学院博士課程修了、文学博士。北京大学副教授、国際日本文化研究センター助教授、准教授等を経て、2013年より現職。専門は日中文化交流史。主な著書に『増補・魔都上海—日本知識人の「近代」体験』(2010年)、『日中二百年—支え合う近代』(2012年)、『「満洲」という遺産—その経験と教訓』(編著、2022年)などがある。



京都新聞文化ホール(京都新聞本社 7階)
京都市中京区烏丸通夷川上ル少将井町239

京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車
⑦番出口 すぐ

参加申し込み方法

参加ご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望人数(複数名参加希望の場合は全員の必要事項)を明記の上、はがき、Eメールまたは右記応募フォームで下記までお申し込みください。応募多数の場合は、抽選で150名に聴講券を送付します。

締め切り: 2023年8月16日(水) (必着)

- 〈はがき〉〒604-8567 京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都新聞COM事業推進局内「日文化研一京都アカデミックブリッジ」係
- 〈Eメール〉 keikaku@mb.kyoto-np.co.jp
- 〈応募フォーム〉 https://kyoto-np.jp/_kIUJCIA



※応募者の個人情報、京都新聞COMが管理し、本事業の運営と日文化研関連事業のご案内に使用させていただきます。

※本事業の取材を希望される方は、右記のアドレスにご連絡願います: keikaku@mb.kyoto-np.co.jp